

# 変貌する原油市況下での 石油会社の取り組みと課題

2016年12月14日

JXエネルギー（株）原油外航部 峰岸 実



エネルギー・資源・素材の<sup>みらい</sup>Xを。  
JX日鉱日石エネルギー株式会社



# これまでの原油価格の動きーWTI価格(過去10年)

- 2008年～: 新興国の需要拡大と投機資金流入により**史上最高値(08年7月:145.29ドル)まで上昇**  
リーマンショックによって発生した世界金融危機により**急落(08年12月:33.87ドル)**  
→**主要因:(1)需給バランス、(3)投機資金の動き**
- 2011年～: アラブの春(10年12月)以降、中東のリスク増大から**高止まり(年平均90ドル台)**  
→**主要因:(2)地政学的リスク**
- 2014年後半～現在: 約6年ぶりの**安値局面に**



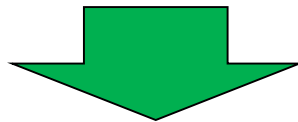
# 原油マーケットの環境変化とその影響

## 原油マーケットの環境変化

1. 米国のシェール革命 → ガス・原油生産量の増大
2. OPEC（サウジ、イラン、イラク等）の増産
3. ロシアの堅調な生産増（制裁影響見られず）



堅調な  
需要の伸び



1. 需給環境の緩和 → 原油価格の低下
2. グローバルな原油フローの変化
3. 産油国のマーケティング戦略強化

# グローバルな原油フローの変化（1）

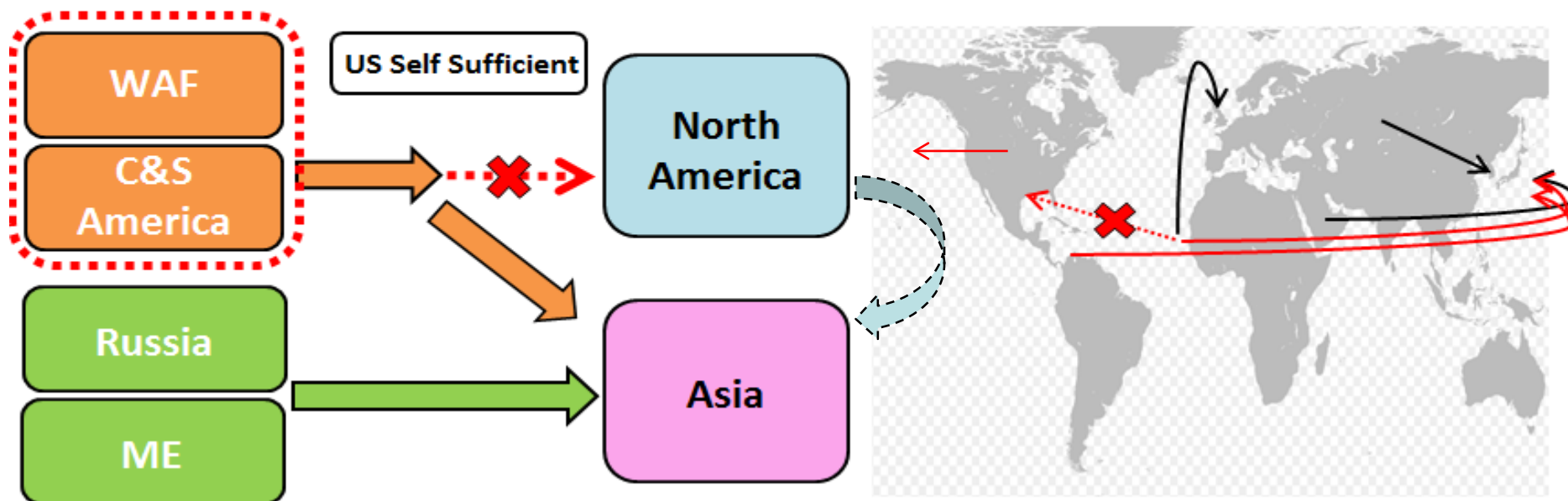
米国の原油輸入量減 / アジアへのフロー増大

Before Shale

After Shale

the Picture has changed

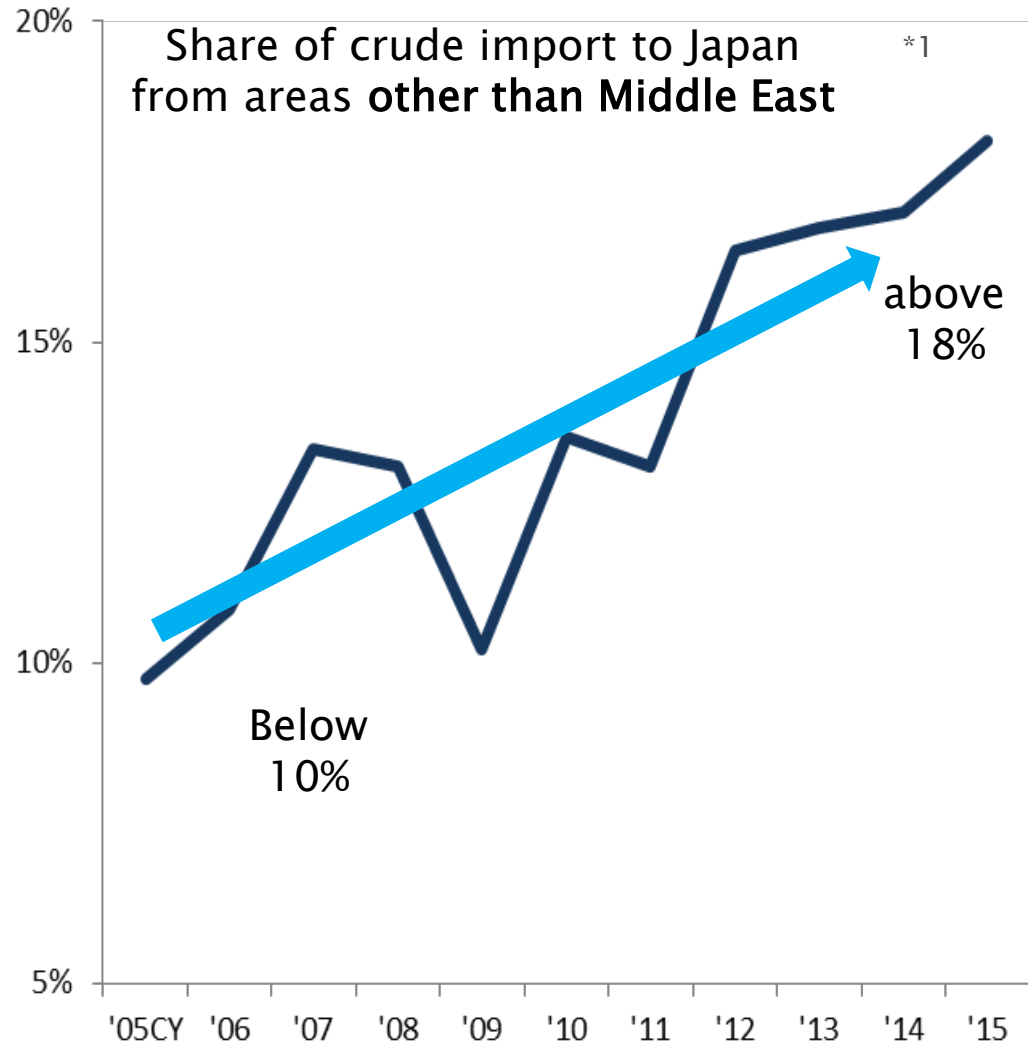
Crude Oil Flow



# グローバルな原油フローの変化（2）



## 中東域外原油の輸入比率が増加へ

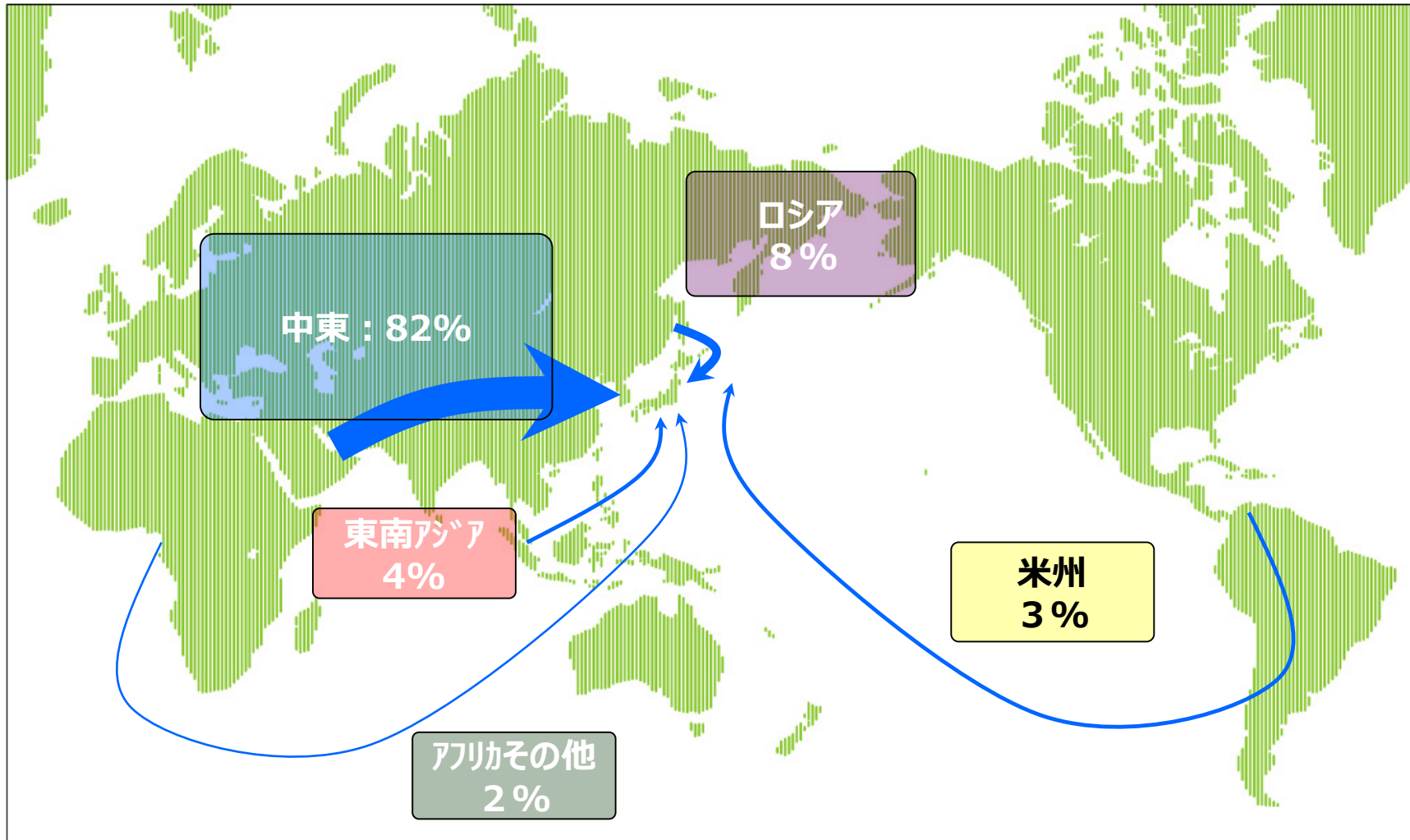


\*1 Countries (Opec+Non-Opec) located in Middle East area

# グローバルな原油フローの変化（3）

全日本の原油調達実績（15FY）

2015FY総輸入力量335万BD



# 産油国のマーケティング戦略変化

## 1. アジア需要家向け販売強化

特に需要の伸びをけん引する中国、インド

## 2. 自国／海外精製能力拡大による、原油アウトレットの多様化

## 3. 販売手法の多様化

- ・原油ストレージの利用

- ・販売条件の柔軟化の動きへ

(数量オプション、価格設定、仕向地制約等)

# 原油市場の変化を受けての調達戦略と課題

## 1. 環境変化

- ・シェール革命以後の原油フローの変化
- ・アジア(特に中国・インド)への需要シフト
- ・産油国のマーケティング戦略変化

## 2. 戦略と課題 : 安定供給と経済性の両立へ

### ●中東産油国との更なる関係強化

### ●原油ソースの多様化

- ・トレーディングネットワークの拡大と機動的な調達体制の確立
- ・新規(含む未経験)原油への対応準備

### ●コスト競争力の強化

- ・より効率的な製油所運営(規模と機動性の向上・設備対応)
- ・製品輸出マーケティングの強化



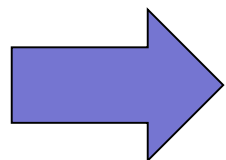
# 今後の石油市況を見る上での注目点

## ● 短期

- ・OPEC減産の実行性と効果

## ● 中長期

- ・非在来型原油（特に米シェール）の供給力
- ・低油価 → 上流開発投資の削減影響
- ・需要の伸び見通し → ピークオイルからピークデマンドへ？
- ・他エネルギー（特に炭化水素系）とのバランス

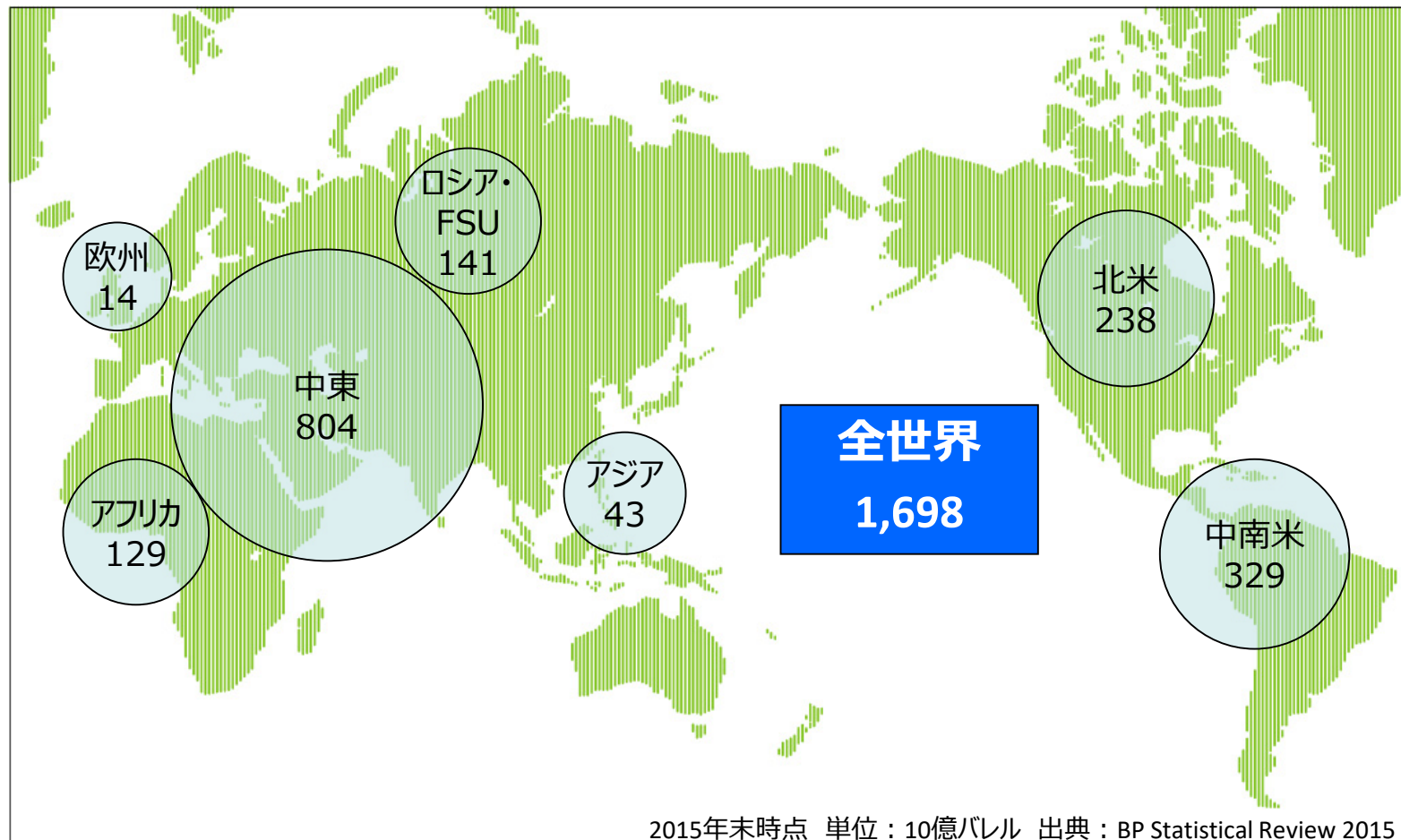


そしてなすべき対応は・・・

## 世界の原油埋蔵量分布図

OPEC加盟国：アルジェリア・アンゴラ・エクアドル・イラン・イラク・クウェート・リビア・ナイジェリア・カタール・サウジアラビア・UAE・ベネズエラ・インドネシア・ガボン

埋蔵量は中東が世界の47%、またOPEC加盟国が世界の74%を占める



# Trends of Crude, Coal and Natural Gas Market

